

# 長岡の経営者に脈々と受け継がれる 「8つの名言・金言」

企業にはそれぞれの歴史と風土によって、培われてきた社是・社訓がある他に、国としての国是や地域に根ざした藩訓などがあります。地域のトップリーダーが好んで使ってこられた「名言」「金言」が息づいているように思われます。

景気が後退し大きく時代が変化している今こそ、あらためて先人の言葉を思い起こしていただき、新たな時代に向けた企業経営の指針としていただければ幸いです。

信は萬事の本を為す

真理は哲学にあり

知  
自  
心

質  
実  
剛  
健

常  
在  
戦  
場

士  
魂  
商  
才

互  
尊  
独  
尊

もうけを考えるより、より無駄を省く

お金は人様からの預かり物

田村文四郎（1854～1920）  
店の再興を第一に考え家業に励み、豊かな商才を発揮した。

野本恭八郎（1852～1936）  
宇宙で唯一生きている独尊と、社会の多くの人々と一緒に生きようとする互尊の両方が大切という教え。

福澤諭吉がつくり渋沢栄一が多用して広まった言葉  
武士の精神と商人の才を兼備することで、実業家のモラルとして使われる言葉。

越後長岡藩の藩訓  
常に戦場にいるという緊張した心構えを表した言葉。

長岡人の気風  
常在戦場と並んで越後長岡藩の気風として古くから用いられている信条。

大橋佐平（1835～1901）  
創業した出版社：博文館を日本一にした大橋佐平の座右銘であり、「自己の心を知り、自己の心に忠実に生きよう」とする教え。

井上円了（1858～1919）  
日本の社会に哲学を普及した東洋大学の創立者。

渋沢栄一（1840～1931）  
人の信用を得ることがすべての基本であるという意味で、長岡の金融界の信条とされている言葉。

※参考文献：「ふるさと長岡の人びと」「ふるさと長岡のあゆみ」（長岡市発行）